

スポーツを専攻する学生への意識について スポーツを専攻している学生がなぜタバコを吸うのか

兼松 智大 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 佐藤 馨

キーワード：タバコ スポーツ 精神状態

1.はじめに

今日、わが国では様々な喫煙防止活動が行われ、タバコの煙が体に悪影響を及ぼすことが明らかになり、またタバコの煙は心肺機能を低下させ運動能力を下げると言われている。しかしながら、以前は力を増すためよくタバコを愛用していたスポーツ選手をよく見かけ、今もタバコを愛用しているスポーツ選手を見る。そこで本研究は、運動する際に喫煙することが運動選手自身にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的とした。

2.研究方法

- 1) 調査対象：びわこ成蹊スポーツ大学 3 回生
- 2) 調査機関：2011 年 10 月下旬～11 月下旬
- 3) 調査方法：留置き調査法
- 4) 回収率：30.9% (有効回答数 103 部)

3. 結果および考察

1) サンプルの属性

回答者は男性 67%、女性 33%、部活動所属学生は 59.2%、無所属学生は 40.8%であった。

2) びわこ成蹊スポーツ大学学生の喫煙状況

現在タバコを吸っている者は全体の 13.6%、現在は吸っていない者は 3.9%、全く吸っていない者は 82.5%だった。この喫煙率は日本の若年層の喫煙率を大幅に下回った。

3) 喫煙時の普段とスポーツ場面の心理的状态

タバコを求める心理状態は、普段は「気分が良い時」「リラックスしたい時」とともに 29%であった。スポーツ場面では「疲れている時」29%、「集中したい時」21%であった。

4) スポーツ前後どちらで頻繁に喫煙するか

スポーツ前 14.3%、スポーツ後は 85.7%で、スポーツ後の喫煙は練習や試合のミスを引っ張らないためタバコを利用していると思われるが、単純に依存症とも言える。

5) 喫煙により運動能力の低下を感じるか

感じた事が「ある」と「ない」の回答は半数に分かれ、あるという学生は息切れを訴え、ないという学生は運動能力低下の理由をタバコに求めないようにしている様子であった。

6) スポーツとタバコについての考え方

タバコとスポーツの関係性を聞いたところ「関係している」と答えた学生の 98.4%が非喫煙者で 1.6%が喫煙者であった。「関係していない」と回答した者は喫煙者、非喫煙者ともに 50%。これはタバコとスポーツは相反するという文脈で答えた学生が多い結果と考える。しかし具体的に何が関係しているか質問しておらず詳細は分からない。

4.まとめ

スポーツ学生の喫煙者の少なさ、スポーツ後にリラックスするのに喫煙を求める者が多かった事、喫煙する事で運動能力が低下したとを感じる者がいる事から、やはりタバコは悪い影響を与えるだけの存在だと感じた。しかし普段とスポーツ場面でタバコを求める心理状態が異なる事、スポーツで集中するために喫煙する事、そうしたことは喫煙学生の心理に何らかの影響を与えていると考えられる。

参考文献

橋爪和夫 山地啓司(2008)「スポーツとたばこ」総合臨牀 Vol. 57. P2078-P2080